

【評価報告書】

学校法人三信学園  
やまばと幼稚園

認定こども園第三者評価結果報告書

報告内容	公表／非公表	ページ
運営法人情報	公表	P1
理念・基本方針		
施設の特徴的な取組		
第三者評価結果の総評		P2～3
第三者評価結果		P4～P15
第三者評価確認書類リスト	非公表	P16～P18
第三者評価結果（詳細）	非公表	P19～P36

【運営法人情報】

施設名称	やまばと幼稚園
運営法人名称	学校法人 三信学園
施設種別	施設型給付
代表者氏名	山崎佐和子
施設所在地	大分県大分市下判田馬場原3502番地
電話番号	097-597-2525
FAX番号	097-597-2526
ホームページアドレス	<a href="https://yamabato.ac.jp">https://yamabato.ac.jp</a>
メールアドレス	info@yamabato.ac.jp
事業開始年月日	1974年4月20日
保育者数・職員数	29名
施設・設備の概要	園地総面積 2万㎡ 園舎敷地 1,714㎡ 運動場 1,212㎡

【理念・基本方針】

<p>&lt;理念&gt; よく遊び、よく学び、みんな仲良く</p> <p>&lt;基本方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりをよく見つめる</li> <li>・時間をかけて、創意・工夫をさせる</li> <li>・やさしさと笑顔で対応する</li> </ul>
--

【施設の特徴的な取組】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と身近に触れ合える保育環境</li> <li>・月1回、(第1土曜)は、自由登園日</li> </ul>
--

【評価機関情報】

評価機関名	(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
評価実施期間	令和6年11月28日
評価者	H29A00844、H28B00227
ECEQ®コーディネーター	EH26450117、EH28450221

## 【総評】

### ●総合評価

評価〔 A 〕

素晴らしい自然や充実した環境で教育・保育が実践されている。教育に関しても理事長・園長のリーダーシップの下で、教育・保育理念を明確に教職員が一体となって園内研修を充実させ教育・保育を実践している。多様な子どもたちが共に学ぶインクルーシブ教育を実践する中で、一人一人の子どもたちが自己肯定感を育むと同時に、社会性、自立性の形成のための援助を行っている。幼児教育の重要性も保護者に発信し理解を深めることで教育・保育を充実することができていた。理事長や園長、教職員も柔和で感じが良い点も評価できる。

### ●特に評価が高い点、園の良さ等

園全体が山地に位置し自然が素晴らしい。広場、砂場、山地にあるアスレチック、上り棒などが用意され伸びやかさを感じる。保育室も広く子どもの表情や動きも伸びやかである。また、インクルーシブ教育を模索しながら実施し、健常児と特別な支援が必要な園児においても生活を共に教育していた。一人一人の状態等により療育機関とも連携することで、個々の幼児の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫をし、適切な教育や指導が行われていた点が特に評価が高い点として挙げられる。

### ●課題、改善を求められる点

園の立地や地域住民の高齢化から地域との関わりが難しいとの課題があった。地域との交流や地域資源については、幼児が豊かな人間性の基礎を培う上で貴重な体験を得るための重要な環境であると考えている。近隣地域に限定できない現状から地域の枠を広げ、人的・物的資源をどのように生かしていくのが課題となっていた。地域と子どもたちや園との関わりをどのように捉え、今後の教育活動に取り入れていくか期待をしたい。

施設内環境については、室内環境にもう少し微細な物の用意や、造形活動が誘発される準備があればより遊びが豊かになる。

運営の評価では、各書類については今後ファイリングをして同じ種類の書類がファイルされる等、事務的な環境整備が必要である。自立するファイルを利用されると書類が探し易くて良い。

●第三者評価結果に対する法人・施設のコメント

当園の特色でもある豊かな自然環境が、教職員の園児に対する教育に伸びやかさという言葉で、また、日々葛藤、日々新発見のインクルーシブ教育を評価していただいたことに非常に感謝します。

課題については、的確な言葉で示していただき、今後の目標として捉えていきたいと思えます。変わりゆく地域に対して、より当園の存在意義を示せるような機会を設けていきたいと考えます。さらに、気象状況の変化により室内遊びも増えることから、その環境整備を教職員と共に考えていきます。

運営面の改善は、自分たち自身の働き方改革へとつながる事案でもあり、早速取り組んでいきたいと考えます。

## 【第三者評価 結果】

### I 保育の公開に伴う保育のプロセス評価

#### 1. 事前訪問時に抽出された自覚的な良さや課題

##### (良さ)

- ・山の中腹にある園であり自然あふれる広い園庭がある
- ・環境を活かした保育や異年齢の交流がある
- ・質の高い保育を実践していこうとする意欲が高い

##### (課題)

- ・預かり保育の需要が高く、特別な配慮を必要とする子どもが多くなっている
- ・職員間の連携や子どもと関わる時間の確保が十分にできていない
- ・職場環境の改善
- ・豊かな環境で展開される子どもの遊びの継続性や連続性を見つめなおしたい
- ・支援が必要な子どもたちを含めた関わりや援助の力を高めたい

#### 2. 公開保育実施前後における課題等

##### ①公開保育実施時の課題等

##### (園全体)

- ・特別な配慮を必要とする子どもへの配慮について

##### (満3歳児)

- ・教師や友達と遊びを楽しむ姿の場面
- ・興味関心をもつための環境構成や教師の関わり
- ・この時期の友達との関わりや工夫や声掛けについて

##### (3歳児)

- ・遊びに自然物を取り入れる環境構成の良かった点と改善すべき点について
- ・保育者の言葉掛けで、子どもたちの発想力を引き出せていた場面
- ・ご自身の園での自然物を取り入れた遊びについて教えてほしい

##### (4歳児)

- ・会話のやり取りの中で気付いたことを教えてほしい
- ・遊びを深めるための工夫や援助の仕方

##### (5歳児)

- ・遊びが継続し発展していくための環境構成
- ・子どもたちが対話的に遊びを進めていく姿や場面を知りたい

## ②公開保育後の協議会における外部から見た良さや課題

自然環境を生かした保育の展開や廃材等での制作など、環境構成の工夫や保育者の関わりなど、外部から見た良さや気付きが協議会でも報告された。

(良さ)

- ・室内戸外を自ら選んで遊びを展開できる
- ・遊びの継続や発展を見据えた環境構成
- ・子どもたちが遊び込め探求できる保育者の声掛け
- ・子どもとともに自然に関わる先生たちの探求心
- ・子どもの声に耳を傾け共感している
- ・子どもたちを認めた声掛けがやさしく適切である

(課題)

- ・子どもの関わりの中での仲介と見守りのバランス
- ・環境構成と子どもの自由な発想での遊びの展開
- ・遊びの継続と発展だけではなく没頭し挑戦していく遊びの理解
- ・自然環境を生かした保育の展開
- ・特別な配慮を必要とする子への対応の工夫

## 3. 事後の園内研修において整理された良さや課題ならびに課題解決の方策

事後研修では KPT ワークで自園の良さや課題を抽出

(良さ)

- ・子どもが好きな遊びを選べる環境の豊かさ
- ・保育者が子どもを尊重し寄り添う姿勢
- ・好きな遊びを選択して没頭して遊べる時間的なゆとり
- ・ティームティーチングの共通理解と連携

(課題)

- ・自然の豊かさゆえの安全確保
- ・インクルーシブ教育を実現していくための支援が必要な子どもへの配慮
- ・行事内容の見直し

(今後の展開)

- ・挑戦していきたい保育の共有
- ・長期的な課題、短期的課題の整理
- ・トップリーダーとの課題共有

## II. ヒアリング等・書面等による評価

### <A 教育・保育>

#### ①子どもの人権、安全と健康

	調査項目	確認結果
1	一人一人の子どもの家庭環境や人種、文化等の違いを知り、異なる意見や価値観を認めあう心を育てよう努めている。	済・未
2	子どもや保護者、同僚を傷つけるような差別的な言葉や態度をしていない。	済・未
3	身体、性、年齢、発達の差等、生来的な差によって子どもに不当な不利益を与えるような言動やシステムがない。	済・未
4	園庭の環境（空間と遊具）や室内の環境（家具や動線）の安全性を、保育の中で注意・改善する視点がある。	済・未
5	子どもの成長や食べる意欲が大事にされた食育（食べることの全ての営み）がなされている。	済・未
6	園生活に必要な一つ一つの生活習慣が、保育者と子どもに、共に大切に扱われている。	済・未
7	全ての子どもが「いる」だけで認められる、心理的な安全・安心が子ども集団（学級）のなかにある。	済・未
8	園生活の中で、大切にしたい信心（特定の宗教を含む）が自然と保育に融けこみ、子どもたちに愛情や感謝の気持ちが育っている。	済・未

#### (コメント)

子どもの人権、文化の違い、互いに尊重する心について、教育方針等を保護者に示すとともに、保護者に理解される取り組みを行っている。園庭では、運動・砂場・山など広い空間でも安全性を担保できるよう職員配置を工夫していることが確認できた。保育の場面では、クラスの子どものみだけでなくすべての子どもたちを受け入れ、子どもの心情を汲み取り、思いを尋ねる姿勢が保育者に身につけていることが確認できた。

②保育者等の資質向上・研修

	調査項目	確認結果
1	豊かな人間性を備えた保育者になることを、園として大切に考え支援している。	済・未
2	保育者等の資質向上のためには、遊びと生活の専門性を高めることが必要であるという共通理解のもとに、教育・保育が行われている。	済・未
3	自園の教育・保育理念を十分に理解し、日々の実践に活かしている。	済・未
4	公開保育を通して、教育・保育の質を高める取組ができている。	済・未
5	職場における同僚性の向上を意識し、保育者集団としての力量を高めようとしている。	済・未
6	保育者等一人一人が社会人としての自覚をもち、その役割を果たすことができるように、組織的な取組をしている。	済・未
7	子どもと関わることを喜び、子どもの遊びが豊かに展開されるような教育・保育をしている。	済・未
8	保育者等一人一人が向上心を持って、研修など様々な学びの機会を得ようとする風土が園としてできている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>保育者同士が語り合う等、園内研修の時間が確保されている。園の研修の記録から外部の研修にも積極的に参加し、研修報告を園内研修で実施していることが確認された。また園内でも年間の計画を立て研修を積み重ねていることが確認できた。公開保育のカンファレンスにおいても今までの育ちや今後の課題を積極的に発言する姿を確認することができた。正規職員と非常勤職員との保育の連携や意識の統一に課題があるとの話があり、今後の ICT 活用や伝達方法などの工夫に期待する。</p>		

### ③教育・保育における実践

#### 1) 子ども理解

	調査項目	確認結果
1	乳幼児期の発達の過程を踏まえながら、一人一人の子どもの内面的な心情や意欲をくみ取り、様々な力を培っている姿を保育者全体が理解しようとする風土を持っている。	済・未
2	子どもの姿や育ち、実践について様々な手法（日誌、環境図、エピソード、写真、動画等）を用いて記録し、一人一人の子ども理解に努めている。	済・未
3	子どもの記録を園内での振り返りや園内研修等に活用し、子ども理解の共有を保育者間で図り、必要な援助を考え環境の構成を見直すなど、保育の計画に活用している。	済・未
4	遊びや活動の意味についてそれが子どもの成長とどう関連しているのか、記録を通じて理解し、実践に繋げようとしている。	済・未
5	園での子どもの育ちを保護者と共有しようと心掛け、家庭環境や家庭での育ちの状況も考慮しながら、子ども理解の幅を広げようと努めている。	済・未
6	特別な配慮を必要とする子ども一人一人の理解に努め、その子に応じた個別の指導計画を作成し、必要な援助を組織的、計画的に実践につなげている。	済・未
7	特別な配慮を必要とする子どもの家庭や専門機関、小学校等とも連携しながら、家庭支援や引継ぎ等における特別支援教育の幅広い環境整備を心掛け、多面的なアプローチで子ども理解を図っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>教育課程と指導計画は、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領に即して作成されている。教育課程、指導計画をもとに子どもたちの姿から計画された月案、週日案等では、実践の振り返りを基に、翌日、翌週の実践へとつながっていることが確認された。子どもの姿や記録から園長先生のリーダーシップのもと研究課題を設定し園内研修に活用していることが確認できた。特別な配慮を必要とする子どもについても、家庭との連携や専門機関との連携ができていることも確認でき、療育を必要とする保護者へのアプローチも図られていた。</p>		

## 2) 教育・保育の計画

	調査項目	確認結果
1	幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程と指導計画は、子どもの発達の姿から、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に即して作成している。	済・未
2	子どもの発達の過程や発達の連続性を見据え、各園の教育・保育の理念や目標に基づいた保育計画によって実践を展開するために月案や週案等を作成して、実践につなげている。	済・未
3	日々の実践を振り返り評価し、明日の実践に反映し、教育・保育の質が向上するように計画を見直している。	済・未
4	個別に対応する必要がある場合については、個別の指導計画を作成している。	済・未
5	保護者の理解と支援の下に実践ができるように幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程は、保護者等に開示されている。	済・未
6	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解が深まる仕組みがある。	済・未
7	計画は実践につながりながら、気候やその日の子どもの状態等に即して柔軟な対応がなされている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>自園の教育・保育理念を十分に理解して、幼稚園教育要領に即した教育課程を作成している。そこから各学年の保育計画に落とし込んで実践の教育保育が展開されている。日々の子どもの変化、環境の変化に応じて柔軟に対応できるよう、保育計画や保育実践に工夫がなされ実践の振り返りを基に、翌日、翌週の教育保育へとつながっていることが確認できた。</p>		

### 3) 環境の構成

	調査項目	確認結果
1	<園舎等の空間>子どもたちが遊び込むことができる時間の配慮、自由な遊びコーナーなど、子どもの自主性・自発性を尊重すると共に、子ども同士の関わりや遊びが豊かに行われる空間環境が工夫されている。	済・未
2	<遊具・家具・絵本・廃材などについて>子どもの成長に合わせた遊具や絵本が、子どもの手の届く場所に適切な量で用意され、子どもが自由に選び、興味をもって関わり、考えたり、試したりして工夫して遊びを展開できるよう配慮されている。	済・未
3	<園庭について>外気に触れ、自然を感じ、興味を持って自ら移動、探索する楽しさを存分に味わい、体を動かす楽しさを味わうことができ、かつ、子どもが安心して遊べる安全面に配慮された園庭等が確保されている。	済・未
4	<動植物の飼育、栽培について>身近な動植物に親しみを持って接し、飼育や栽培を経験することで生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりする環境が確保されている。	済・未
5	<表現活動について>多様な表現活動を経験でき、自ら興味を持って関わり楽しめる工夫や継続して活動できるような環境の構成がされている。	済・未
6	<数量・図形・文字標識などの環境について>数量や図形、文字や標識に自然に触れ合えるような環境が工夫されている。	済・未
7	<衛生管理について>施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、子どもたちが使用する備品類の消毒が行われている。また、自分の健康に関心が持てる工夫や、病気予防のための配慮がされている。	済・未
8	<メンテナンスについて>手洗い場や机・椅子等、子どもの身体にあった大きさを整えられ修繕されている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>屋外には四季を感じられる山が見渡せ、自然を感じながら遊べる園庭が広がっている。園庭には山や植栽の環境があり、体を動かすグラウンドや砂場など自ら興味をもって探求できるように動線も工夫され、子どもたちが興味や関心を持ちイメージを広げて遊んでいる。やまばと幼稚園内で十分に教育課程に伴う経験や体験ができる環境が整っていた。屋内では、数量や文字、標識等に触れる環境や、子どもたちが手に取り落ち着いて読める十分な量の絵本が揃えられ、豊かな環境となっている。</p>		

4) 実践

	調査項目	確認結果
1	<p>乳幼児期にふさわしい生活が展開されている。</p> <p>(1)子どもが保育者を信頼し、自分が受け入れられ見守られているという安心感を持って生活できるような配慮をしている。</p> <p>(2)興味や関心に基づいた直接的、具体的な体験の積み重ねを大切にした教育・保育が行われている。</p> <p>(3)子どもが友達と十分にかかわって生活できるような配慮をしている。</p> <p>(4)子どもの発達の過程に応じて、適切な運動と休息をとることができるようにしている。</p> <p>(5)在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。</p>	済・未
2	<p>子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している。</p> <p>(1)子どもが主体的に、遊び込める時間と空間を保障している。</p> <p>(2)子どもが自分の目的を持って、考えたり、試したり、工夫したりする過程を大切にしている。</p> <p>(3)子どもの主体的な活動を促すために、保育者が多様な関わりを持ち、様々な役割を果たすように努めている。</p> <p>(4)子どもが周囲の自然に親しみをもち、それらを生活や遊びに取り入れたり、生命を大切にする気持ちが養われたりするような援助をしている。</p> <p>(5)子どもの発達の過程に応じて、協同して遊ぶ活動を取り入れ、友達同士が互いの存在を認め合い、一緒に遊ぶ楽しさや喜びが味わえるような援助をしている。</p>	済・未
3	<p>遊びを通した総合的な指導を行っている。</p> <p>(1)子どもが主体的に環境にかかわって遊びを展開する中で、心身の発達にとって必要な経験が相互に関わりながら積み重ねられている。</p> <p>(2)子どもが発達していく姿を様々な側面から総合的に捉え、指導している。</p>	済・未
4	<p>子ども一人一人の特性や発達の過程に応じた指導をしている。</p> <p>(1)子ども一人一人の発達の過程や生活環境等を把握し、その子の発達の特性や発達の課題を理解して指導をしている。</p> <p>(2)子どもが主体的に周囲の人や物に働きかけることができるよう、環境の構成を工夫している。</p> <p>(3)子ども一人一人が自分の思いや考えを出していく中で、互いの違いを認め合い、尊重し合う心が育つような援助をしている。</p> <p>(4)特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の教育・保育に当たっては、ほかの子どもとの生活を通して共に成長できるように援助している。</p>	済・未

5	<p>行事等を通して、園生活に変化や潤いを与えられるよう工夫している。</p> <p>(1)季節の行事や誕生会等を通して、子どもが季節感や文化などを体感できるようにしている。</p> <p>(2)子どもが行事に期待感を持ち、主体的に取り組んで、喜びや感動、達成感が味わえるような配慮をしている。</p> <p>(3)園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加したりする等、子どもが地域の人々と交流し、社会に対する興味や関心を持つような機会を作っている。</p>	済・未
<p>(コメント)</p> <p>多くの公開保育参加者の発言から、やまばと幼稚園の保育者が適切な援助を行ったり、子どもが自分の力でいろいろな活動に取り組めるように配慮したりしていることが確認された。また、異年齢での関わりや配慮を必要とする子どもへの関わりも見られ、保育実践が適切に行われていることが確認できた。保育者は子どもの主体的な活動を促すために多様な関わりを持ち、担任もクラスサポートの教職員も同等に様々な役割を果たすように努めていることが確認できた。</p>		

#### 5) 記録・振り返り

	調査項目	確認結果
1	個人の記録や集団の記録、エピソード記録等、子どもの状態と園の方針や仕組み等の状況に応じて、必要な記録を適切に行っている。	済・未
2	記録を客観的に振り返ったり、保育者間で話し合ったりして、次の教育・保育の計画に活かしている。	済・未
3	適宜、実践の振り返りと評価をする機会がある。	済・未
4	情報共有ができる同僚性の豊かな保育者集団の中で、園としての評価結果の共有や課題発見が行われ、計画・実践に適切に反映されている。	済・未
5	園内で共有された子どもの育ちや実践の過程、または評価結果について、保護者や地域社会等の園外に向けて適切に発信し、共有していく努力をしている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>保育者は日々の保育実践を自省と共に振り返り、子どもたちの記録をまとめていることが確認でき、記録を継続・共有する仕組みが有効に働いていることが確認された。記録については、教職員が話し合い、記録の時間を作り出すなど、負担がかからないようにも工夫されていた。日々の振り返りを理解し実践していることが確認でき、記録を他の保育者と共有することで、子どもを多面的に理解しようと努めていることも確認できた。</p>		

#### ④家庭や小学校、地域との連携

	調査項目	確認結果
1	小学校教育との円滑な接続のために教育・保育の内容を工夫している。	済・未
2	子どもの成長発達について保護者との連携を行い、保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている。	済・未
3	自己評価・学校関係者評価に取り組み、その結果を保護者や地域に伝える等、園全体で教育・保育の質の向上のために改善がなされるよう手立てを行っている。	済・未
4	子育て親育ちの場として、地域における子育ての支援に関するセンター的役割を果たしている。	済・未
5	教育時間終了後等に行われる保育は、子どもの生活にふさわしい指導計画の下に行っている。	済・未
6	地域の資源を積極的に活用し子どもが豊かな生活体験を得ることができるような機会を設けている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>幼保小連携には小学校側の難しさを感じているが、首藤主任が幼保小連絡推進協議会で発言を繰り返してること、一歩前進したとの報告を受けた。架け橋期のカリキュラムに向けてより近隣小学校と連携が進められることを期待する。地域との交流は、近隣地域の高齢化により難しくなっていると報告を受け、地域以外の交流ができるよう行事等工夫されていた。</p>		

## Ⅱ. ヒアリング等・書面等による評価

### < B 運営 >

#### ① 運営体制

	調査項目	確認結果
1	教育・保育に対する理念や方針が明確である。	済・未
2	コンプライアンスを遵守し、管理体制を構築している。	済・未
3	会計事務を適切に行っている。	済・未
4	人材確保や継続して勤務できる職場環境である。	済・未
5	教育及び保育の質を向上させるための運営体制が整備されている。	済・未
6	適切な教育環境を維持するために必要な財源が確保されている。	済・未
7	学校評価を実施している。	済・未
8	適正な法人運営を行っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>小学校退職校長が園長に就任されていて、ある意味安定してしている。幼児教育の学びの意味が説明できることがとても大切である。</p>		

## ②安全管理

	調査項目	確認結果
1	自然災害や事故等を想定した危機管理マニュアルを策定し、訓練を実施している。	済・未
2	教育・保育における危機管理マニュアルを定期的に見直している。	済・未
3	園舎、遊具及び車両の安全点検や環境のチェックを定期的に行い、必要に応じ改善を行っている。	済・未
4	園児の衛生・健康管理に努めている。	済・未
(コメント)  必要な書類が揃っている。		

## ③子育ての支援

	調査項目	確認結果
1	子どもの発達や学びが、小学校教育につながるように小学校との連携をはかったり、地域の関係機関や団体と連携をはかっている。	済・未
2	園児の成長を通じて、保護者の親育ちを支援する取組を行っている。	済・未
(コメント)  今後も保護者の理解促進と支援に努めましょう。		